

# “わ” ふれあい

1998年10月

第3号

Tel (078) 743-8100

Fax (078) 743-8103

KSC社会還元センター

ふれあい編集委員会

## グループ”わ” 21世紀に向けてシルバー・パワーを！ 臨時総会開かれる

9月17日(木) 10:30~12:30  
社会還元センター・グループ「わ」  
の第1回臨時総会がカレッジ・ホール  
で開催された。

出席者は会員304名中130名。

来賓はシルバーカレッジ小前副学  
長および各区役所からの9氏。

〔福原克巳議長あいさつ〕

総会は本来は春に行うべきもので  
あるが、発足したのが昨年7月であり、  
ようやく1年が経過したばかり  
である。

本年4月にはⅡ期生を受け入れ、  
8月にはトンボサミットに組織をあ  
げて協力してきたので、事業の一つ  
の区切りとして、今回「臨時総会」  
を開催した。

「再び学んで他のために」と6部  
会を設けて活動を始めた。社会のニ  
ーズに合わせて福祉部会を新たに設  
けた。当初は各部会のタテ割り、出  
身コースへのこだわりも懸念した

が、トンボサミットにおける各部  
会の枠を越えた活動や在校生との共  
同作業などをみていると、その心配  
はなくなった。活性化のためのイベ  
ントやキャンペーンの必要性を痛感  
した。

わが国の政治、経済、モラルの低  
迷をいかにして克服していくかは国  
民の重要かつ緊急の課題である。

さらに、わが国では出生率が低下  
し、一方では平均寿命がのびて高齢  
化が進んでいる。しかし、幸いなこ  
とに高齢者の90%以上は元気な人  
たちである。これからは高齢者が高  
齢者を支える気構えが必要になって  
くるであろう。

21世紀に向けて、シルバーパワ  
ーの一層の活用と地域活動への参加  
を推進したい。当学長がいつている  
ように「シルバーカレッジの壮大な  
実験を壮大な実践に換える時である」  
と考えている。

臨時総会開かれる	1	パネルディスカッション	6
“わ”への期待	2	サミットの感謝状	8
事業報告	3	アンケート調査集計	8
会計報告	4	総会出欠回答集計	10
規約説明	4	長江募金報告	12
質疑応答	5	編集後記	12

## グループ“わ”への期待……関係先来賓より

臨時総会に出席をいただいた来賓は、次の9氏。

シルバーカレッジ副学長 小前 千春氏  
事務局長 和田 宣一氏

神戸市社会福祉協議会

福祉活動部長 長谷川清文氏

ボランティア情報センター

所長 小池 裕氏

神戸市中央区ボランティアセンター

コーディネーター 垂井加寿恵氏

神戸市長田区ボランティアセンター

所長 阪井 正明氏

神戸市須磨区ボランティアセンター

所長 河合 靖代氏

神戸市垂水区ボランティアセンター

所長 森 雅良氏

コーディネーター 小林 由佳氏

以上9名の、招待来賓紹介に引き続いて、2来賓のあいさつがあった。

小前副学長からは、第1回「わ」の臨時総会開催に対しての祝辞のあと、トンボサミットに関連して、「環境用語集」や「しあわせの村の自然」の冊子の作成、

舞子駅周辺の清掃作業や、ガイドなどを身につけ、会員相互の親睦・和が強くなる事によって、この事業が成し遂げられつつある。

会員相互の和をより一層進め、気の長い事業であるが、粘り強い活躍と期待が寄せられた。

長谷川部長からは、盛大な臨時総会開催に対して祝辞があり、平成9年7月に「わ」設立後一年余の経過にもかかわらず、多数の会員の多岐にわたる分野での活躍に対し敬意が寄せられた。世情一般では来るべき高齢化社会を、ややもすると活力のない、マイナスのイメージでとらえがちであるが、長い人生経験と、豊富な知識を備えた高齢者の、貴重な人材の能力を十分に発揮できれば、明るく活動に満ちた未来社会の到来は疑いない。

福祉協議会は地域福祉の推進、ボランティア活動の振興が使命であり、「わ」に対しても全面的に支援したいとして、「わ」への厚い期待がかけられた。



臨時総会（前列席…関係先来賓）

## 『ボランティアの要請増える…地域との情報連絡を密に』

### 事業報告 (金川事務局長)

臨時総会への出席については葉書回答の結果、約半数の130名の出席を得た。

昨年7月、結成総会においてI期生多数の賛同により“わ”が発足。諸手続き・準備段階を経て、実際の活動開始は11月。新組織のため試行錯誤の連続のすえ、最近になって、やっと各区ボランティアセンターはじめ多く

団体にも知られるに至り、介護ボランティア・カーボランティア・イベント等の要請が増加。

今年4月からはII期生多数が入会。現在登録者総数304名となった。また、今回の臨時総会出欠の葉書回答から、いろいろ立場の異なる会員の近況を知ることができた。そして“わ”に対して十分な理解を得、機会をみて活動に参加したい意向が伺われたが、あらためて、この機会に“わ”に対する会員の意見や希望などを把握するためのアンケート調査を行うこととした。

さらに、部会の活動内容・ボランティアの種類や内容等の情報提供不足などの指摘もあり、“わ”事務局としてこのPR不足を陳謝。

善策として、“わ”の機能向上・地域間連携等を効果的に進めるため、すでに企画委員会を発足、各区ごとの世話人を設けるなど、組織強化を図った。

各部会の事業内容については臨時総会資料および“わ”ふれあい情報誌を参照のこと、として各部会の活動状況の概要を報告。

★A部会(講師・指導者派遣等)「ロングステージ灘、保養センターひよどり、神の谷地区福祉センター等、市内各地の施設に対する

多彩サービス」

★B部会(生活文化伝承等)「陶芸、昔あそび、クラフト等の参加。最近はA・B両部会の共同活動のケースが多い」

★C部会(地域活動参加等)「近隣の幼稚園・保育園、ロングステージ灘等における人形劇、舞子駅周辺観光客に対するガイドサービス」

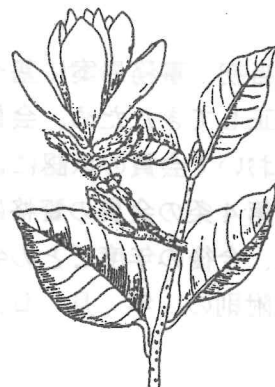
★D部会(外国人支援等)「外国人支援基金積立のための出店、日本語指導、ベトナム人子供の勉強指導、トンボサミットでの外国人交流会主催」

★E部会(調査研究等)「“しあわせの村の自然”・“環境用語集”等の冊子発行、しあわせの村自然ウォッチングの定例行事化」

★F部会(広報・出版等)「緑地課依頼による“こんにゃく”に関する冊子、情報誌に“わ”のPR記事掲載、“わ”ふれあい情報誌を2回発行」

★G部会(福祉等)「カーボランティア、バス旅行やキャンプなどの介助、引っ越しの手伝い」

★トンボサミット開催特別協力「“わ”から5名の委員出席、在校生ともども大会への準備、閉会時のカレッジコーラスによる感動的合唱」  
などである。





## 18ヶ月予算編成を了承へ 会計報告（板谷委員）

臨時総会の第1部を終了、来賓退席。つづいて第2部の会計報告および規約説明が行われた。

この会計は「ただ報告の形で、本会において決議・承認を仰ぐものではない。資料のとおり、昨年10月1日（“わ”の活動開始時）から今年3月31日までのもので、事業費は規約第12条に基づく川重シルバー活動基金よりの助成による。収入の部の70万円は本年3月31日に助成されたが、毎年度の終わりに活動費が給付される。

活動費は“わ”の会員の活動に対し¥500/日を支給、印刷製本費は「しあわせの村の自然」の印刷費、事務費は“わ”センターの経費。

平成9年10月1日～平成11年3月31日の18ヶ月を一事業年度として、次回の通常総会において会員の承認を得たい」として、本日の会計報告は了承された。



## 暫定的規約に基づく活動を了承 規約説明（胤艸委員）



当初、事務局案に基づいて、センターが発足、運営していくなかで必要に応じ逐次修正してきたため、会員の承認を得ないまま、暫定規約の形で運営。来年の通常総会において会員の承認により正式規約として運営する。

第4条の会員の資格に関する規定は重要であり、第6条の役員の構成に関する規定は、今後の年度ごとの会員の増加に対応しての体制が課題となろう。

附則の年月日は、来年の通常総会で承認決定のうえ明記する。

## 質疑応答



規約説明のあと、本日の臨時総会の案件に対する一括質疑応答が行われた。

[Q1] 大森氏（I期、国際、地域活動部会に属すると自覚。）

会計報告について。

- 1) 規約第12条3項に、収益金の「事務処理」とあるが、「会計」の表現がない。
- 2) 会計年は12ヶ月であるが、報告の18ヶ月の意味は？
- 3) 収入の助成金70万は、毎年の予算編成時に70万を予定してよいのか？

[A1] 1) 規約の表現については配慮する。

- 2) 通常会計年は12ヶ月であるが、今年は通常総会を行っていないので、昨年10月1日～本年3月31日までの6ヶ月を加え、今年度に限り18ヶ月予算とした。
- 3) 今後の助成金は不明。当センターの事業計画が認められれば給付の可能性もある。助成を心配して事業計画をしぼれば、助成困難となる。活動への熱意の表明が不可欠である。

[Q2] 岡本氏（I期、福祉、所属部会はない）

会則について、昨年7月に要望した点を入れて欲しい。

「会員の義務」：会員は本会を政治・宗教・営利その他の目的のために利用してはならない

「事業内容」について、平成12年からの介護制度実施に伴い、来年10月から6段階レベルの介護保険審査が始まる。最低のレベルにも査定から外れた人、(自立高齢者)は何も恩恵を受けられない。この人達のために“わ”の活動を拡げる配慮を望む。来年以降、卒業生の家族の中に該当者があれば、手を差し伸べるべることから始めて欲しい。

[A2] 「会員の義務」については規約の中で取り扱う。

「事業内容」の件については、会員の中から先ず始めることを考える。介護保険については、今後勉強を重ねる。

[Q3] 規約に「センター」の表現は不要。

第5条2項の「決定或いは会員総数」の字句を検討して欲しい。

「会計」の条文が必要。

[A3] 十分検討し、取り入れて明確にする。

[Q4] 「細則2項」は「第10条」と同文であるのはなぜか？

[A4] 検討して整合を図る。

[Q5] 「支出の部」の金額が大きい。どの枠まで出すのか？

[A5] 活動参加が、相手側からいっさい助成がない場合と、500円以内の助成があった場合に、1行動6人を限度として、¥500/日/人を支給。



『再び学んで他のために』・明日の“わ”を語る  
【パネルディスカッション】

コーディネーター	丸尾 恵子 氏	(国際交流協力コース講師)
パネラー	田村 かずえ 氏	(Ⅱ期・福祉・E 部会)
”	小倉 久好 氏	(Ⅱ期・福祉・A/B 部会・ “わ”副委員長・企画委員)
”	西村 秀美 氏	(Ⅱ期・生涯・C 部会)
”	宮城 智子 氏	(Ⅱ期・絵芸音楽・A/G 部会・ “わ”実行委員)
”	小島 哲 氏	(Ⅰ期・生涯・E/F 部会・ “わ”実行委員)

★はじめに丸尾コーディネーターより「サミットで大きな“わ”の広がりが一つにまとまったこの時期に臨時総会が開かれ、ここに5人のパネラーにより実際の活動状況や今後“わ”がどのようにして行けばよいか?など、話しを進めたい」と前置きがあり、パネラーの自己紹介を踏まえて、まずどういった活動をしてきたかについて話題が進められた。

\* (田村氏)「長年、点訳に従事、福祉事業協力者として感謝状をうけた。登山や自然を愛好、自然観察指導員の資格を取得。人間と自然との共生を目指す。“しあわせの村の自然”冊子編集でイラストの協力。ふれあいの“わ”に少しでもお役に立ちたい」

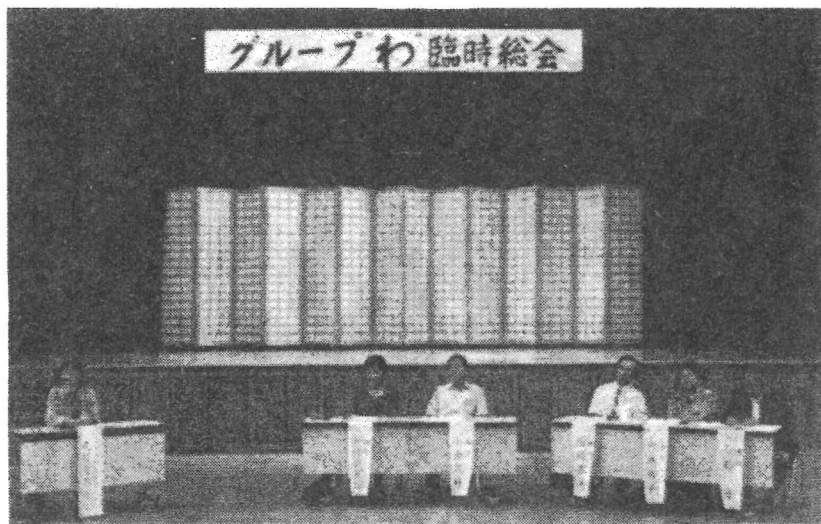
\* (小倉氏)「今年から、ある身障者団体のボランティアをしている。Ⅰ期生の福祉活動を知り、社会還元として何かしたい、と“わ”に参加」

\* (西村氏)「地震のあと、学友のボランティア活動を知った。卒業後“わ”の紹介により神戸市の“子育て推進委員として須磨区役所に7月1日から採用された。児童館の日曜開放・親と子供のふれあい参加な

どの準備を進める」。

\* (宮城氏)「姑の介護で、5年間いろいろの方のお世話になった。将来、健康であるかぎりボランティアでつくしたい。コーラスで老人ホームや施設を訪問。兵庫ボランティア講義を受講して登録。仮設訪問などで心の交流ができた。カレッジのボランティア活動も1年間手伝った。ボランティアは人から強制されるものでなく、自分からそのなかに踏み込んでするものとして、“わ”に参加」。

\* (小島氏)「トンボサミットで“わ”の力の集積を痛感。1993年、神戸市の観光ガイドに応募、内外観光客のガイドに従事。また、居住地の奥須磨公園のトンボなど、小さな生きものを増やしてふるさとづくりや子供の環境学習のためにトンボを育てる会を地域の人と協力してつくり、自然観察をつづけている。地域のひと、環境専門家や行政などネットワークが広がりその延長線上で神戸でトンボサミットをひらくきっかけとなったが、地震で中断、そのなかでもなんとかして実現したいとの目的意識をもって進めた。さらに会場としてカレッジの使用が許可されたことにより実現の目途



左より

丸尾 氏  
田村 氏  
小倉 氏  
西村 氏  
宮城 氏  
小島 氏

がつき、「わ」7部会の賛同も得、関係団体の協賛により大スケールのイベントとなった。小さいことでも熱意ある取組は、おのずと道が開けるとい希望がもてた」。  
★ここで、コーディネータから「個人的に人と人のつながりを求めた活動が、やがては和をまとめる大きな力になり、行政・民間・ボランティアなどパートナーシップをうまく活用するなかで、広く地域全体につながる発信元がシルバーカレッジであり、「わ」の集まりである。Ⅰ期・Ⅱ期、それぞれの立場での活動についての5人のパネラーの話の概要と理解する。

専門コースの学びがクロスオーバーしてこそ「わ」である」として、前半が締めくくられた。

★ついで、「今後の「わ」の活動の夢」について対話がつづけられた。

\* (田村氏) 「カレッジは年齢差が大きいうえで、体力の差が問題。人生を楽しく過ごそうという目的や、少しでも社会の役に立ちたい、など人の思いは多様。日本には伝統的にすばらしいものが多い。「わ」としても後世に伝える仕事を考えていくことが大切。高齢者にありがちな固定観念にとらわれずに取り組んでいきたい」。

\* (宮城氏) 「活動にはなにより仲間の組織が大切。お互いに無理をしないで、楽しく、力を出し合ってやっていきたい」。

\* (小島氏) 「双方向性の情報交流が大切で、皆が体験した広い情報をお互いに知らせる。海外の情報も参考にして流す。偏った情報では組織・活動ともに伸びない。知的財産を活かし、シルバーカレッジだから出来る仕事の開拓が夢」。

\* (小倉氏) 「少子化・超高齢化が非常に速く進み、スウェーデンの100年に対し日本は30年で突入。しかし医療問題・介護問題などの体制は不十分。また、Ⅱ期生はまだ日が浅く、以前からボランティア活動している人以外には実際にはあまり活動に参加していない。今後は地域密着型・即応型の組織活動が望ましい」。

\* (西村氏) 「児童館の有る所では、日曜開放には孫と親、そして高齢者も出かけて行って、高齢者には何が出来るかを見つけて一緒に楽しんでほしい」。

\* パネルディスカッションが終りに近いとき、小島氏から「情報連絡不足の反省から本日のアンケートにより会員の意見・感想を聞かせてほしい」との要望があった。

★最後に、コーディネーターからは「シルバーカレッジは実験の場であり、実践につながるのはシルバーカレッジの人の「わ」の力による。進みながら目的をつかんで行き、21世紀に向けて力を発揮してほしい」と強い要望と大きな期待が寄せられてパネルディスカッションが結ばれた。

## 感謝状

神戸市シルバーカレッジ  
社会還元センター殿

貴グループは第九回全国トンボ市民  
サミット神戸大会の開催にあたって  
「わ」の力を集め支援をされました  
深い謝意を表します  
今後も社会還元活動を通し地域社会  
貢献をされるよう期待します

平成十年九月十七日

第九回全国トンボ市民サミット神戸大会実行委員会

実行委員長 中 瀬



## アンケート調査集計

今回の臨時総会に出席の会員及び在校生に対しアンケート調査をいたしました。

回答の内訳はⅠ期生が54名、Ⅱ期生が32名、Ⅴ期生が2名でした。

また、男子46名、女子35、記入漏れが7名でした。計88名の方からいただきました。運営委員会より厚くお礼申し上げます。

アンケート集計の結果はつぎのとおりです。

### 1. 総会の主旨について

1) 理解できた→36名。 2) ほぼ理解できた→43名。 3) 理解できなかった→9名。  
(無回答を含む)

### 2. パネルディスカッションについて

1) よかった→35名。 2) ほぼよかった→29名。 3) よくなかった→24名。  
(無回答を含む)

### 3. “わ”の活動の参加について

1) よく参加→25名。 2) ときどき参加→48名。 3) 参加していない→15名。  
(無回答を含む)

### 4. 上記の3)の理由について

1) 他のボランティアに参加→11名。 2) 地域活動で忙しい→13名。  
3) 健康がすぐれない→→→→5名。 4) 家族の介護→→→→5名。  
(その他を含む)

5. ご回答いただいた88名のうち、上記の1.～4.項に関して57件のご意見・ご感想などをいただき、これらを類別すると別表のようになりました。情報不足、PR不足のご意見が多いなかで、活動参加への関心の高いことが伺われました。





“わ”臨時総会における出席アンケート調査の意見・感想・コメント等の類別

	意見・感想・コメント等の類別	I期生(件)	II期生(件)	V期生(件)	小 計	
					(件)	(%)
1	情報不足・情報の徹底	12	4		16	21.6
2	一般会員の声が聞こえない	3			3	4.0
3	総会を聞く意義は？	2			2	2.7
4	参加への呼びかけがない	1	2		3	4.0
5	会員相互の意志の疎通が必要	1			1	1.3
6	参加テーマがない。新事業の企画を	1			1	1.3
7	参加したい。お手伝いしたい	6	5	1	12	16.0
8	会員の構成が片寄っている	2			2	2.7
9	登録システムの再考を望む		2		2	2.7
10	“わ”の活動に期待	5		1	6	8.0
11	多くの会員が参加できる企画を	3			3	4.0
12	各区の世話人選定を早く望む	1	1		2	2.7
13	インターネットにホームページを(“わ”広がる)	1			1	1.3
14	I期からII期へのバトンタッチを	1			1	1.3
15	参加費の給付に疑問	1			1	1.3
16	PRが足りない	4	4		8	10.7
17	各自の能力・技を活かせ	1			1	1.3
18	地域別組織化を望む	1	1		2	2.7
19	サミットの工作室協力の報告がない	1			1	1.3
20	会場設営に不備	1			1	1.3
21	パネラーの内容が問題	1	1		2	2.7
22	市の協力をもっと呼びかけよ		1		1	1.3
23	“わ”の中に相談コーナーを		1		1	1.3
24	パネラーの経験談参考になった		1		1	1.3
計(件/%)		49/65.3	23/30.7	2/2.7	74/100	



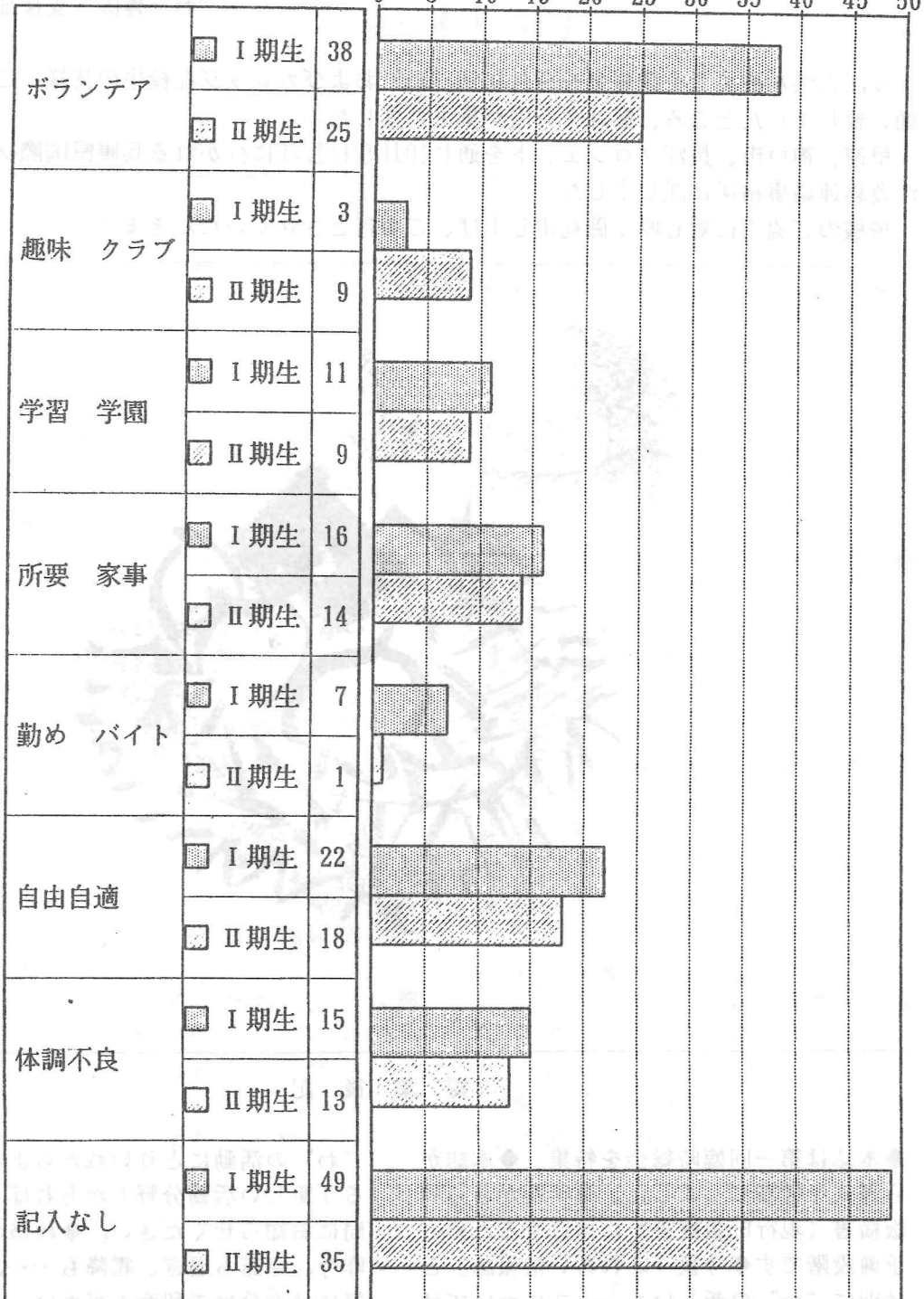
総会出欠回答集計

第1回臨時総会出欠回答に記載の意見、希望の集約 10.9.20

記 事	I期生	II期生
ご苦労様・お世話になります・頑張れ。	14	7
情報を得るために“ふれあい”は、よい。	2	
資格・経験を生かしたい。	1	
資金が少ないのでは。	1	
活動の展開を考え直してみてもは。	2	
もっと情報がほしい。	3	3
“わ”の会員へアンケート調査しては。	1	
活動を広げ過ぎではないか。	1	
もっと活動をするべきだ。	2	1
当初の部会より、他の部会へ活動が移った。	1	
部会の中で、地区毎の編成をしては。	1	
所属部会の中で、何をしたらよいのか。	1	
2期生に活動に移して行く。	4	
今後の活動に期待する。	2	
カレッジ事務局・在校生の協力を。	1	
活動が偏っている。	1	
行事には参加したい。	1	
基金の用途を明確に。	1	
部会内の交流を考える。	1	
活動に参加したい。	1	
参加する気はあるが、機会がない。	4	6
2期生へのアピールをするべきだ。	1	
遊ぶ事も取り入れる。	1	
委員は交代すべき時期ではないか。		1
在学中から“わ”に参加しては。		1
部会の出席が少なく、“わ”だけが空回りしている？		1
招集が多く、生活に負担がかかる。		1
部会の活動が少ない。		1
何をするのか分からない。		5
部会の行事を事務局前に掲示してほしい。		1
“わ”全体のイベントをしては。		1
入会したが、なにも連絡がない。		2
パネルディスカッションとは何のことか。日本語で書け。		1
活動するための研修を考える。		2
助成金の活用を多く。		1
活動が物足りない。		1

近況報告

(単位：人)



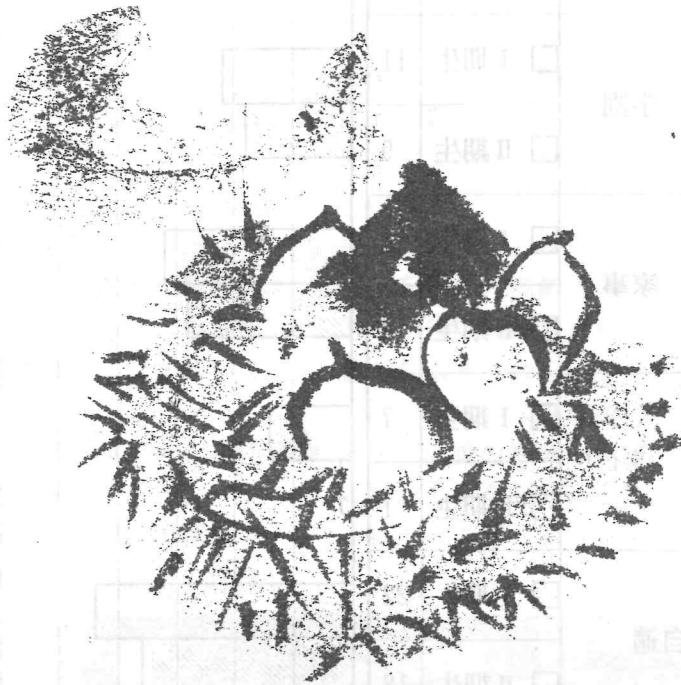
## 長江大洪水支援募金の御礼とご報告

“わ”外国人支援部会

長江大洪水被災者支援募金を9月初旬“わ”およびカレッジ在校生の皆様にご協力をお願い致しましたところ、総計7万円が集まりました。

早速、神戸市、長江プロジェクトを通じ10月5日長江に行かれる兵庫県国際交流神戸長江貿易連絡事務所に託しました。

皆様のご協力に対し厚く御礼申し上げ、ご報告とさせていただきます。



## 編集後記

◆本誌は第一回臨時総会を特集。◆本誌から書式を横書にしました。来年度からA4版横書（現行B5版縦書）に移行するための予備段階です◆今後「ふれあい情報誌」とは別に“わ”の新しいニュースについてはその都度『号外』を発行。◆地域において

“わ”の活動にとりいれたらよいと思われる「新しい活動分野」があれば“わ”事務局にお知らせください。◆秋祭の便り多い昨今、寒露も過ぎ、霜降も……、朝晩の冷氣には十分にご留意ください。